

新倉地域の伝統行事

- 富岡家を中心として -

講演者：富岡 進



写真1 講演の様子

(平成26年10月22日撮影)

今、教育委員会の鈴木さん（和光市教育委員会職員）のほうから御紹介いただきました富岡でございます。よろしくお願ひいたします。座って説明させていただきます。

お手元のほうに配らせていただきました資料（表1）なんですけども、年間行事という形でメモしてあります。これは茅葺（旧富岡家住宅）の当時もそうでしたけども、現在の新しくなりました家でもまるっきり同じことをやっております。新倉地域もほぼ同じではないかなと思うんですけども、鈴木さんのほうからお話があったように、その家その家で神様に飾るものだとか、仏様にお供えするものだとか、そういうものが違うということがあるかもしれません。富岡家ではここに書かれているような形で行っておりますので、ちょっと行事は多いんですけども、一つ一つ説明させていただきます。

1. 1月の行事

元旦、元日の朝ですね。神棚、それから恵

比寿大黒、この恵比寿大黒は恵比寿様と大黒様を一つのお宮の中に飾ってあるものです。それから荒神様。今この茅葺でもカマドの上にまつてありますけども、そこへお供え物をする。表1に「準備品」と書いてありますけども、ここに御神酒、それから鏡餅、お雑煮、灯明、蠟燭の明かりですね、それから榊、これを元日の朝飾ります。それを行うのは当主です。元日の日、二日、三日、この三日間は当主がお雑煮を作ります。女性は手を触れないで、男が作る。それでサンガンニチ、神様にそれはお供えする。それで神様にあげるときに、直径10cmくらいの白いお皿を使うんですけども、それにお雑煮を乗せて飾り付けるんですけど、二日目はそれをキレイに払ってしまわないで、その上に足していきます。これはサンガンニチ足していきます。そういうような形でお正月の神様へのお供え物を作る。

次は7日の日なんですけども、これは七草。神様へ七草を刻んだものをご飯の上に振りかけて、お供えをする。それは先ほどの元日の

日と同じように神棚と恵比寿大黒と荒神様です。

8日の日に門松を外すんですけれども、これは門松を外すだけで、神様に対する行事は行いません。門松だけをこの日はうちでは外しております。

それで11日の日に鏡開き。神様にお供えしたお餅をでお雑煮を作るんですけれども、お餅を細かく砕く、あるいは包丁を入れましてね、それでお雑煮を作って神様に御神酒、それから灯明をお供えする。

14日の日なんですけれども、これは繭玉作り、飾りですね。神棚と恵比寿大黒と荒神様、それから稲荷様。私どもの所には二つの稲荷様がありまして、駒形稲荷神社という稲荷と、正一稲荷大明神という、二つの稲荷様がありますので、その稲荷様にも繭玉を飾ります。それで繭玉は、うるちの粉を丸めて、蒸かしてですね、それを繭の形にしたり、あるいは野菜の形にしたり、色々な形を作りまして、それで色を添えるために食紅で赤く染めたものを、あるいは白いうるちのその粉のままのものを作りまして、キンカン、それを梅の小枝に刺しまして、それと一緒に先ほど申し上げました神様の方へお供えすると。その時も同じように御神酒ですとか、御灯明というの

と一緒に飾りこみます。

それで次は15日の小正月なんですけれども、これは他所のお宅はどういう形で神様に対してやっているのかわからないですけれども、うちでは小正月っていても神様に手を合わせるっていうことはいたしません。当家に嫁いできた嫁さんですとか、お正月当家に来られるお客様の接待で実家に帰るといってもできませんので、この正月を使って里帰りをする。あるいは家に残る女衆にちょっと休憩を取ってもらう。身体を休めてもらうという風な形で小正月を行っております。

次の20日の日なんですけれども、恵比寿講ですね。これは恵比寿様と大黒様をテーブルの上におろしまして、そこへ尾頭付きの魚、うちでは「さば」をつかっておりますけれども、さばを恵比寿様と大黒様ということで二匹。それからうどん。これもお皿に二つうどんを盛りまして、それからおつゆですね。これも二つ。薬味、それから一升枀。枀は一つです。それで御神酒と灯明。それでこの枀の中には家族のお財布ですとか、給料袋があれば給料袋を入れたりして、「お金が増えるように」っていうことでお願いする。それで神様達に色々お供えするときには、必ずその前には「キリヒ」をします。よく時代劇で「チャッ



写真2 駒形稲荷神社と正一稲荷大明神

チャッ」っていうのを見ますよね。石に金物を当てて。あれを必ず神様のことについては、お供えするときには「キリヒ」をいたします。これは、神様のことに関しては必ず「キリヒ」をするということです。

2. 2月の行事

2月3日に入りまして、これが節分です。豆まき、それから主屋と物置の戸口に鯛の頭、柊を飾る。それで鯛の頭、これは鯛一本の頭だけを串に刺すんですけれども。串に刺して、炙るんですよ、火で。その時にですね、私どもは農家ですので、その時に作付けしてあるほうれん草ですとか、小松菜ですとか、にんじん、大根、まあ色々ありますけれども、そういう作物名を先に言って、虫封じの意味の言葉を唱えます。そのときに、「ホウレンソウのム〜シ、シ〜ネシネ」っていうんです。ですから小松菜でしたら「コ〜マツナ〜のム〜シ、シ〜ネシネ」って言いながら、ちょっと汚い話ですけども、ツバではないんですけども、「ぺっぺっ」っていう風な言葉を言いながら真っ黒になるまで炙ります。串に刺した鯛と柊とを対にして、戸口、玄関ですとか窓、そういう外から鬼が入ってくる場所っていうのは全て準備したものを取り付けます。ですからウチは茅葺のときもそうでしたけども、主屋と物置で合わせると24箇所、これを作りまして、それを付けてまわりました。その付ける前に鬼は外、福は内というような豆まきをするんですけども、豆まきの後ですね、今申し上げました魔除けのものを戸口に刺す。

それで4日立春。節分は立春の前の日ということになります。その次に「宵宮さま」というのがあるんですけども、この宵宮さまというのは初午の前の日のことをいうんですよ。それで初午は、表には日にちが入っていませんけども、毎年日にちが変わります。「節分が過ぎての初めての午の日」が、初午になりますので。初午は半紙の上に赤飯、それか

ら油揚げ、灯明、そしてここに四箇所の稲荷様と書いてありますけども、私どもの2つの稲荷様と、それから分家のお宅の稲荷様、分家が2軒あるんですけども、そのお宅の稲荷様に半紙の上のお赤飯と油揚げを持っていく。そして初午の前日が宵宮さま。私どもの駒形稲荷神社、これを障子紙にですね、「奉納駒形稲荷神社 ○○年二月初午」と書いたものを、私どもは正一稲荷と駒形稲荷で一本ずつ旗を作りまして、それを自宅の稲荷様に飾る。それから分家のお宅には正一稲荷っていう稲荷様をまつてありますので、夜ですね、初午の前日の夜に旗だけを立ててきまして、翌日の初午の日に改めてお赤飯と油揚げをのせた半紙をまつります。

3. 3月の行事

3月3日はひな祭り。飾りつけは2月中旬に行いまして3月4日まで飾り付ける。準備はお雛様とちらし寿司、はまぐりのお吸い物、白酒、ひし餅、あられ、桃、菜の花。今申し上げた準備品を、お雛様の前に飾ります。

18日の日は春の彼岸の「入り」です。墓参りをするんですけども、そのときの準備といいますと、朝はぼたもちか饅頭、お昼はうどん、夜はなんでもよして書いてあるんですけども、そのときそのときの食事をする。それでお寺さんに頼んでありました彼岸供養の塔婆をいただいてきて、それは仏様の前に彼岸の入りは飾っておきます。それで21日は春の彼岸の「中日」です。やはり朝はぼたもちかまんじゅう、昼はうどん、夜はなんでもよしという風になっていて、その日に彼岸塔婆、彼岸の供養の塔婆を墓地に持って行って供養する。お墓参りですね。それでこの「中日」というのが春分の日です。24日は春の彼岸の「明け」。やはり朝昼晩は、入りと中日と同じような食事を仏様にもあげたり、自分たちでもいただく。

4. 8月の行事

それで、4月、5月、6月は、何も行事が無いんです。それで8月に入りまして、七夕。東京の方は7月ですけども、新倉では8月の7日が七夕飾り。6日の日に飾り付けて8日の朝には、昔は川に流しましたが今は流せませんので、それは燃やすとかして処分しています。それで8月6日に笹飾り。すいか、まんじゅう、灯明、うどん。それで備考のところに朝はまんじゅう、昼はうどんと書いてますが、やはりうどんはお昼に食べています。夜うどんでもいいような気がするんですけども、うちではお昼はうどんです。

13日はお盆ですね。これはやはり「入り」っていうんですかね、盆棚を飾ります。民家園でもお盆には盆棚を飾ると思いますけども、解体してある盆棚を組み立てて、仏様に入っている位牌ですとか、それから仏具、そういうものを盆棚の中に収めて飾りこみます。それで盆棚の周りには昔からたたんであります掛け軸とか、そういうものを飾りこんで、13日の夕方、あまり遅くならない、いくらか日が落ちてきたかなという時間帯に、仏様を迎えにお墓に行きます。その時に提灯を持っていくんですよ。やはり仏様の足元を照らして転んだりしないようにということで、今は少なくなってきましたけども昔は個人個人の家紋の入っている提灯で足元を照らして、仏様を迎えてきました。それでうちに来ますと、仏様に入っていただく場所にはバケツに水を半分くらいはって、足を洗っていただくということで、バケツを用意してあります。それと足を拭くタオルとか手ぬぐいですね。それで仏様に上がっていただいて、ゆっくりしていただくと。それでそのお迎えする13日の日なんですけども、盆棚に飾る野菜があります。スイカだったり、果物だったり野菜だったり、花、ナスの賽の目。これはナスを細かく切ったものをちょっと深鉢にハスの葉をひき、その上に入れます。それでミソハギという花があるんですけども、そのミソハギ

を何本か束ねまして、手で持つところを半紙でくるみまして、糸で半紙がほぐれないように巻きまして、それでその先ほどのお皿にナスを刻んで入れたものの上に乗せて、それも盆棚の中に飾りこみます。それで深鉢の中にお水を入れるんですけども、深鉢のナスとお水を入れる前に、蓮の葉を、蓮の葉がなければサトイモの葉ですとかイモの葉ですね、これをお皿の上に乗せて、それにナスを刻んだものをいれて、お水をひたす。そういうものを盆棚の中に準備します。それで盆棚の周りには縄を張るんですけども、縄のところにはほおずき、ほおずきはうちでは葉を全部はずします。他所のお宅はちょっとどうだかわからないんですけども、うちでは裸になるような形で、茎にほおずきの実だけがついているようなものを一緒に縄のところにつけて飾りこみます。お迎えした晩はかぼちゃとご飯をお供えします。それで盆棚の上にちょうどA3の用紙の幅くらいの「お盆」なんですけども、昔からあるお盆なんですけども、それにお茶碗、小さな湯呑みですね、これを5つ、四隅と真ん中に一つずつ、それを配置して、それにお茶を注いでおく。それからもう一つのお盆にはやはり5つ、小皿に載せたご飯を四隅と真ん中に一つおかずという形で、盆棚に飾りますけども、それで盆棚の前に座布団を引くんですけども、その盆棚の下、やはり同じようにこれはお盆に小さな湯のみ茶碗にお茶を注いだものを一つのせたもの、それとご飯とおかずをのせたもの、それを盆棚の下に飾るんです。それが仏様のお付きの人の分なのか、それが私もちょっとわからないんですけども、昔からそのようにやっております。

それから14日のお盆は、朝がおまんじゅう、お茶、お新香。昼がうどん、天ぷら、薬味。夜は家族と同じ食事、まあ何でもいいということですかね。それからお茶。それで13日のお迎えしたときにあげたナスの賽の目にしたものを、それからひたしたお水ですね、そうしたものを新しくする。

15日のお盆なんですけども、仏様の食事

は前日と同じで、夜、仏様が乗って帰る乗り物としてナスとキュウリに足をつけたものを飾ります。それからお土産の団子。それで15日に新倉地区は送っているんですけども、やはりゆっくりウチにいてほしいということで、夜遅くに送ります。ちょうど東上線の坂戸あたりから秩父の方、群馬の方にかけては16日に送っているんですよ。新倉地区は早く、先ほどの夜遅くゆっくり休んでいただいてから送るといこともお話ししましたが、働くということから考えると早くお盆を終わらせたいということがあるから15日に送ってしまうのかなという感じもするんですけどもね。新倉の方は田んぼ地帯ですからね。場所が違うということで秩父の方は16日に送るけども、新倉地区では15日に送ることになっております。

16日、お盆の次の日なんですけども、やはり墓参りをします。それで墓参りをするときにはお寺さんで施餓鬼塔婆っていうのをいただいて、それをもってお墓参りにまいります。お盆が終わって24日の日なんですけども、盂蘭盆っていうのがあります。うちは朝はおまんじゅうとお茶ぐらいで、墓参りをするんですけども、このときはお盆でお客様を迎えるということで、働き手の女の人がゆっくりできないということで、そのうちに嫁いできたお嫁さんは実家の方で休養、里帰りをさせるようなことで、この盂蘭盆っていうのは始まったのかなと思っております。ですから正月明けの小正月と同じようにお嫁さんたちの休養を兼ねた日ということで、この盂蘭盆がこの地区で行われているのかなと思っています。

5. 9月の行事

9月15日、お月見。これは十五夜ですね。ススキを5本、サトイモ、豆腐、クリ、これは果物ですので柿かミカンなど、その時あるもの、それから灯明、御神酒、団子。団子は15個つくりまます。それで「キリヒ」をして、

テーブルの上に窓を開けて、お月様の見えるようなところに飾りこみます。

20日の日は秋の彼岸の「入り」です。やはり墓参りをして、朝はおはぎかまんじゅう、昼うどん、夜はなんでもよい。それでお寺さんから彼岸供養の塔婆を彼岸の入りの20日の日にいただてきます。

23日は彼岸の「中日」なんですけども、これは秋分の日です。やはり準備する食事ですとかそういうものは入りと同じで準備し、それで入りの日にお墓参りをするとき、お寺さんからもらってきた彼岸供養の塔婆を置きにもっていきます。

それで26日は秋の彼岸の「明け」になりますので、この日もやはり同じようにはおはぎをつくったり、まんじゅうをつくったり、そして昼はうどんということで仏様にあげます。

6. 10月の行事

10月に入りまして、13日の日がお月見の十三夜です。このとき準備するものはススキは3本、お団子は13個、サトイモですとか豆腐ですとか、果物、灯明、御神酒。

31日、荒神様出雲へお立ち。出雲大社というのはあらゆる神様が集まるということで、この日に荒神様も出雲に行くということで、うちでも団子は36個、それから黄色い小菊、灯明、お神酒を荒神様にお供えする。荒神様は火の神様、カマドの神様をいいますが、このカマドの上にあまつてあるのが荒神様ですね。この荒神様が10月31日に出雲へ出かける。

7. 11月の行事

11月20日が恵比寿講。やはり1月の恵比寿講と同じように、尾頭付きのサバ2匹、うどん、つゆ、薬味、それから一升枧、御神酒、灯明。このときお願いすることは、お金が増えるようにということで、持っているがま

口ですとか、お財布ですね、それから給料袋を入れたり、ヘソクリがあればそれを入れたり、というかたちで何とかお金を増やしてほしいということで、願います。

30日の日に荒神様が出雲からお帰りになります。そのときもやはり団子は36個、黄色い小菊、灯明、お神酒をお供えする。

8.12月の行事

12月の冬至。これは一年中で一番昼間が短い日。このときはカボチャを甘辛に煮て、ゆずも皮付きを薄く刻んでそれをお砂糖をからめて食べると。それからゆず湯に入る。無病息災で過ごせるようお願いしながら食べる。

それから餅つきなんですけども、暮れの29日は、「くんち餅」といって、あまり良い日ではないとされておりまして、29日の日は避けます。ただあまり早く餅をついてしまいますと、カビが生えたり、日持ちが悪いので、まあ28日に、うちはつくようになっています。

大掃除。これは居宅だけではなく、神様、全てのお宮ですね。これをきれいにします。それでそこに入っているヘイシン。ヘイシンは紙で白くてこのようになってて、柱に立ててあるヘイシンですが、このヘイシンですとか、他の飾り物は全てはずして、新しいものに掃除の後、きれいにしたところにまつりこみます。28日、正月飾りですが、掃除の後なんですけども、神棚ですとか、恵比寿、大黒、荒神様、それから稲荷様、そこに先ほど申し上げたヘイシンですとか、注連縄、それから御札。新しくいただいた天照皇大神宮、それから私のうちでは明治神宮。御札が三つ入るようになっていきますので、天照皇大神宮、明治神宮、それから地元の氏神様である氷川神社、この三つのお札を納めます。それでその行事というのは28日にやるんですけども、どうしてもやれなくて31日になるようでしたら、31日の日にはやりません。これは「一

夜飾り」といってあまり良いとされていないので、うちでは掃除をして、どうしても30日にやれないようでしたら、元日の朝、鏡餅ですとか御神酒ですとか、そういうものをあげる前に、飾り付けをしまして、元日の日のお供え物をまつります。ですからなるべく28日の日に飾り付けができるように掃除も終わらせてやるんですけども、他の事で色々やれないときには、元日の朝ということですね。

31日の日は、1年間で最後の行事なんですけども、鬼玉と申しましてね、俵の形のおにぎり、これを12個うちでは握ります。小さな俵形なんですけども、それを12個お皿の上に乗せまして。これは神様ではなく仏様です。それまでは仏様の扉っていうのは開けてあるんですよ。それで毎日お水とお茶と、そういうものをあげてお参りしているんですけども、31日の日はその鬼玉というおにぎりをつくりまして、それを仏壇に入れまして、仏壇の扉を閉めます。それで閉じて、富岡家としては正月開けの7日まで扉は開けません。暮れに鬼玉を飾りこむっていうことは、正月の時には仏様のことは忘れようと。おめでたい正月ですので、神様の行事に専念するということで、7日まで仏壇の扉は閉じておきます。

9.最後に

ちょっと同じような言葉の行事がたくさんあって、お聞き苦しい点があったかと思いません。

それで表1の下に※で、春の彼岸のぼたもちとありますが、これはボタンの花に見立ててぼたもちなんです。それをうちはつくりまます。つぶあんですね、もちろん。ぼたもちは。それで秋の彼岸のときにはおはぎをつくりまます。これはハギの花に見立てたものということで、うちではおはぎを秋の彼岸にはつくることにしています。これはこしあんです。それから先ほどお話したように、駒形稲荷と

正一稲荷が我が家にあるということ。そして年二回の恵比寿講は、1月は恵比寿様が働きに出かける、11月は恵比寿様が働きから戻ってくる。先ほどお話した1月20日の恵比寿講のときは働きに出かけてもらう、11月20日の恵比寿講は、恵比寿様・大黒様が働きから戻ってくる。

それから秋の彼岸明けから春の彼岸の入りまで、このときは神様の行事だけなんです。仏様の行事っていうのは無いんですよ。ですから寒い時期は神様の行事、それから春の彼岸の明けから秋の彼岸の入りは、七夕様とお月見以外は仏様の行事。七夕様とお月見というのは空を見上げて星のことの行事なので、身近な行事のことではないのであれですけども、この暖かい時期というのは仏様の行事を行っています。

長い時間、お時間をいただいております。富岡家の年間の行事ということでちょっとお話をさせていただきました。どうもありがとうございました。
(会場拍手)

<質疑応答>

質問：五月の端午の節句というのは、富岡家ではどのように行っているのでしょうか。

回答：昔から富岡家はわりかし女系家族なんです。男子があまりいなかったんですよ。そういうこともあってか、男の節句はあまりやってないんですよ。

【註】

1. この講演録は、平成26年10月22日に和光市教育委員会主催により行われた「古民家と地域の伝統体験講座」の第1回目において、富岡進氏により行われた講演の内容を、録音記録を元に、和光市教育委員会生涯学習課職員の手により活字化したものである。活字化の過程において、講演者の講演内容を変えることが無い様できる限り努めたが、講演者の了解のもと、体裁（月ごとの見出しを付ける等）等、内容の意図に反しない程度に若干の加筆・修正を加

えていることをお断りしておく。

とみおか すすむ（和光市文化財保護委員）

表1 富岡家年間行事

月	日	行事	準備品	備考
1	元旦に神棚・恵比寿大黒・荒神様、稲荷様へのお供え	御神酒・鏡餅・お雑煮・灯明・梅 神様へ七草を振りがけたご飯をお供え(神棚・恵比寿大黒・荒神様)	お雑煮は三願日の朝、男性が準備	
7	七草			
8	門松を外す			
11	鏡開き			
14	臘玉飾り(神棚・恵比寿大黒・荒神様・稲荷様・床の間)	神棚にお供えしした鏡餅でお雑煮を作り、御神酒・灯明を神様にお供え 臘玉(餅米の粉を丸めて蒸かした団子・キンカン・梅の小枝)	当家に嫁いだお嫁さんが実家への里帰り 一升杵に家族のお財布入れ、お金が増えるよう祈る	
15	小正月			
20	恵比寿講(恵比寿様・大黒様)			
2	3節分(豆まき・主屋と物置の戸口にイワシの頭、ひいらぎを飾る)			
4	立春			
	宵宮さま(初午前日の夜)			
	初午(稲荷様へお供え)			
3	ひなまつり(飾付けは2月中旬～3月4日)			
18	春の彼岸(入り、暮参り)			
21	春の彼岸(中日、暮参り)			
24	春の彼岸(明け、暮参り)			
8	七夕かざり(6日に飾り付け、7日夜取り外し)			
13	お盆(盆棚かざり、夕方提灯の明かりで仏様をお迎え)			
14	お盆			
15	お盆			
16	墓参り(盆棚の取り壊し)			
24	盂蘭盆			
9	15 お月見(十五夜)			
20	秋の彼岸(入り、暮参り)			
23	秋の彼岸(中日、暮参り)			
26	秋の彼岸(明け、暮参り)			
10	13 お月見(十三夜)			
30	荒神さま出雲へお立ち			
11	20 恵比寿講			
31	荒神様出雲よりお帰り			
12	冬至(一年中で一番屋間が短い日)			
	餅つき			
	大掃除			
	正月飾り(神棚、恵比寿大黒、荒神様、稲荷様)			
31	臘玉(猿形の小さなおにぎり)お皿に12個乗せた物			

※ 春の彼岸・・・ぼたもち(ボタンの花に昇立てたもの)粒あん
 秋の彼岸・・・おはぎ(ハギの花に見立てたもの)こしあん
 当家には二つのお稲荷様(駒形稲荷神社・正一稲荷大明神)
 年二回の恵比寿講・・・1月、恵比寿様が動きに出かける。11月、恵比寿様が動きから戻る。
 秋の彼岸明けから春の彼岸入りの間は神様の行事のみで、春の彼岸明けから秋の彼岸入りの間は七タ・お月見(十五夜)以外仏様の行事です。